

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24531214

研究課題名(和文) グローバル時代における移民学習の教材開発 - ポストコロニアルの視点から

研究課題名(英文) Developing Teaching Materials of Migration in Global Age: From Postcolonial Point of View

研究代表者

森茂 岳雄 (Morimo, Takeo)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：30201817

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、多文化化が進む日本の学校において活用できる日系移民学習の教材を開発し、それを活用した実践を通してその意義と可能性を検証することを目的としている。特に本研究では、合衆国のハワイと南米のペルー及びパラグアイでの日本人移民、日系人調査を通して、教材の作成を行った。そして、その教材を大学の授業において活用し、学生からのフィードバックを得て教材に改善に役立てた。

また、本研究で行った教材開発の方法を、大学における海外体験学習のプログラムに応用し、学生による日本人移民・日系人の教材化を試み、その成果を報告書としてまとめた。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this research is to develop teaching materials about Japanese immigrant from a viewpoint of postcolonial, and to verify significance and possibility through classroom practices making use of them. We made use of the developed materials in some university class, and improved them by feedback from students.

研究分野：多文化教育、国際理解教育

キーワード：移民学習 ポストコロニアリズム 教材開発 多文化共生 グローバル・スタディーズ

1. 研究開始当初の背景

近年のグローバル化の進展がもたらすトランスナショナルな人の移動は、一国内、一地域内の民族的・文化的多様性を生み出している。グローバル化と多文化化が連動して進行しているのが今日の世界的社会変動の特色である。このような多文化化する国家、地域において「多文化共生」はこれからの人類的課題である。

多文化化の進展は、近年日本においても顕著になってきている。法務省の発表によると、我が国の外国人登録者数は2005年には初めて200万を越え、総人口の1.67%に達した。それに伴って、日本の学校で学ぶ外国人児童生徒も増加している。しかし一方で、それら急増する外国人、特にアジアや南米等の開発途上国の人々に対するステレオタイプな認識や差別意識(コロニアルなまなざし)が日本の児童生徒の中に強く存在しており、それが教育現場において外国人児童生徒へのいじめや外国人児童生徒の不就学、学力問題等々、さまざまな問題を引き起こしている。そこで、このような異文化に対するステレオタイプや差別意識を軽減し、「多文化共生」にむけて行動できる市民としての資質(Multicultural Citizenship)を一人ひとりの児童生徒に育成することはこれからの教育の大きな課題の一つである。

研究代表者と研究分担者は、これまでこのような多文化共生にむけての資質を育成するための学習テーマとしての「移民学習」の意義と可能性を認識し、科学研究費及び他の研究基金を得て、教育現場や関係博物館などとも連携しながら、特に日系移民学習についての研究と実践を重ねてきた。(森茂 22, 17, 14, 中山 8, 森茂・中山 16, 1, 番号は研究業績欄の文献番号、以下同様) その一連の研究を通して、移民学習が学習者にとって多文化社会におけるシティズン

シップを育成するのに有効であることを明らかにしてきた。また、移民学習はマジョリティである日本人児童生徒だけでなく、移民してきた外国人児童生徒にとっても自国の歴史や移住先国での自民族の貢献や自文化の維持・継承の意味を学ぶことを通して、自らのルーツに対する認識を深め、自己のアイデンティティの確立を促し、学力保障にもつながることを主張してきた。

しかし研究代表者、研究分担者を中心とするこれまでの日本における移民学習に関する研究は、日本から海外へ出て行った日本人移民の歴史や文化についての学習、それも主に北米、南米への移民についての学習が主で、歴史の中で日本に移住してきた人々や、今日さまざまな目的で日本に移住してきている人々の実態や問題については十分取り上げてこなかった。また一連の研究を通して、近代における「移民」という社会現象の背景には植民地主義(コロニアリズム)の影響が大きいことを再認識した。そのような背景の中で、現在の日本におけるオールドカマー及びニューカマーの両方を含む在日外国人に対する日本人(児童生徒)のまなざしの中には、今もコロニアルな意識が存在しており、その克服が今後教育の大きな課題であることも認識した。

そこで本研究では、その問題解決への思考モデルとして「ポストコロニアリズム」の理論を基盤にしたい。ここでポストコロニアリズムとは、「植民地主義時代後においてさえなお続く支配者による言説や見方に支配されてきた人々の立場からの抵抗やその視点にたったものの見方」である。1970年代に植民地化および脱植民地化の過程を批判的に思考する研究関心が現れ、エドワード・サイード、ガヤトリ・スピヴァク、ホミ・バーバラによって文学を中心にポストコロニアル批評として確立され、その後歴史学、社会学、文化人類学などの

学問領域で活発に議論された。

ポストコロニアリズムの思想は遅れて教育学でも議論が開始され、近年アメリカを中心にポストコロニアル教育学の模索が始まっている。実践レベルでは、カリキュラムの中にポストコロニアルの視点をどう反映させるかが模索され、先住民学習を事例にその実践研究が開始されている。本研究のテーマである移民は、どの時代どの国においても他者であり、移住先国においてマイノリティとして抑圧され、自由、平等、公正といった基本的人権の脅威にさらされてきた。そこで、移民学習にポストコロニアルの視点を取り入れることで、国民国家によって他者化され抑圧されてきた人々の視点から従来の移民学習の内容や教材を再構成することができる考えた。

2. 研究の目的

本研究は、多文化化が進む日本の学校において多文化共生にむけて、ポストコロニアルな視点から、文化的背景の異なる児童生徒が自己及び他者の文化や歴史の理解を深める移民学習教材を開発し、それを活用した授業実践を行い、その意義と可能性を検証することを目的としている。具体的には、近代史のコロニアルな時代状況の中で海外に移住した日本人移民の歴史や、反対にかつて日本の植民地支配にあった国から日本に移住した外国人の歴史や文化に関する教材の開発を行う。また本研究を通して、本研究の理論的基盤としたポストコロニアル教育学の意義とその日本における実践可能性についても検討する。

3. 研究の方法

(1) 理論研究：本研究の理論的基盤であるポストコロニアル教育学についての先行研究の検討を行い、移民学習教材の視点を抽出する。また、海外（特に米国及び英国）における移民についての読み物教材及び関

係資料の収集を行うと共に、開発者へのインタビューを通して、今後開発する教材の開発視点を得る。

(2) 教材開発研究：(1)から得られた教材の開発視点をもとに日本から海外（主に太平洋地域）に出て行った日本人移民について海外フィールドワークを通して、移民学習教材の開発を行う。

(3) 応用研究：(2)の移民教材開発の方法を大学の海外体験学習のプログラムで学生を対象に実施し、その意義を検証する。

4. 研究成果

(1)の理論研究については、海外研究協力者の一人であるサンフランシスコ州立大学のデイビット・ヘンプヒル教授を招聘し、ポストコロニアル教育学についての公開研究会を行い、その講演の翻訳を公刊し、そこから移民教材開発の視点を得た。（デイビット・ヘンプヒル、森茂岳雄・青木香代子訳「ポストコロニアル教育学への招待-グローバルゼーション・ナショナルリティ・ハイブリディティ」『教育学論集』第56集、169-201頁）。

(2)の移民教材の開発については、グアムを中心としたマリアナ諸島や、南米のパラグアイ、ペルーでフィールドワークを行い、読み物教材を中心とした教材開発を行った。

(3)以上の研究の応用として、本研究で開発した教材開発の方法を、研究代表者が大学で担当している「グローバル・スタディーズ」という海外体験学習のプログラムに応用し、ハワイ島におけるフィールドワークを通して日本人移民、日系人に関する教材づくりを行い、学生の開発した教材を集めた報告書（各年1冊、全3冊）を刊行した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計15件)

森茂岳雄・中山京子・福山文子、日系移民学習の教材開発と実践(1)-移民学習教材としての「日本-ブラジル移民カルタ」

の開発、JICA 横浜移住資料館研究紀要、
査読有、7号、2013、42-61

中山京子、社会科における多文化教育の
再構築-ポストコロニアルの視点から先
住民学習を考える-、査読有、社会科教育
研究、116号、2013、35-44

中山京子、グローバル・ヒストリーにお
ける太平洋地域の意義と歴史教育-マリ
アナ諸島を中心に-、査読有、グローバル
教育、Vol.15、2013、76-88

中山京子 他、英米のドラマ教育の視点か
ら見る低学年における激活動、査読有、
帝京大学教育学部紀要、1号、2013、87-96

中山京子、異文化理解および主張を表現
する教育活動-グアム研究を事例に-、査
読有、帝京大学教育学部紀要、2号、2014、
197-206

森茂岳雄 他、相互交流を通じた「多様な
変容」の実践的分析-高等学校海外研修の
臨牀的検討-、査読有、国際理解教育、
Vol.20、2014、61-65

中山京子 他、スタディツアーにおける学
びと変容-グアム・スタディツアーを事例
に-、査読有、国際理解教育、Vol.20、2014、
51-60

中山京子、マリアナ諸島の公立学校にお
けるアイデンティティの育成-グアムの
社会科教育を中心に-、査読有、社会科教
育研究、125号、2015、120-131

中山京子、小大連携を活かした国際理解
教育実践-ポストコロニアルにたつグア
ム先住民学習-、査読有、帝京大学教育学
部紀要、4号、2015、27-40

森茂岳雄、文化人類学と学校をつなぐ-
国立民族学博物館の教育活動を振り返っ
て-、査読有、国立民族学博物館調査報告、
138、2016、21-36

森茂岳雄 他、みんなくシアター-ハンズ
オンからマインズオンへ-、査読有、国立
民族学博物館調査報告、138、2016、21-36

中山京子、博学連携教員研修ワークショ
ップ10年のあゆみ、査読有、国立民族学
博物館調査報告、138、2016、37-46

中山京子 他、歌と踊りで語り継ぐ南の島
の物語、査読有、国立民族学博物館調査
報告、138、2016、91-96

森茂岳雄 他、ハワイ日系人の教材づくりに
関する海外スタディツアーの教育的意
義-物語論的アプローチによる大学生の
自己変容プロセスの分析を通して-、JICA
横浜移住資料館研究紀要、査読有、10巻、
2016、25-40

中山京子、2016年グアム・太平洋芸術祭
にみる教育とアイデンティティの育成、
査読有、帝京大学教育学部紀要、5号、
2017、109-119

[学会発表](計10件)

森茂岳雄・中山京子、トランスナショナ
ルな歴史認識とグローバル教育、日本グ

ローバル教育学会第20回大会シンポジ
ウム、2012.9.8、同志社女子大学

中山京子 他、スタディツアーにおける学
習論-グアム・スタディツアーを事例に-、
日本国際理解教育学会第23回大会特定
課題研究、2013.7.7、広島経済大学

森茂岳雄 他、臨牀的研究としての「ゲス
ト-ホスト相互交流」論-高等学校の海外
研修を事例に-、日本国際理解教育学会第
23回大会、2013.7.7、日本国際理解教育
学会第23回大会特定課題研究、2012.7.7、
広島経済大学

中山京子、Educational Approach to
Express the Understandings and
Message: Guam Case Studies、The 14th
Annual Conference on Education for
International Understanding, Korea、
2013.11.2、全北大学、全州市、韓国

中山京子、The Prospect of Global
Citizenship Education in the 21st
Century and the Task of Education for
International Understanding、The 15th
Annual Conference on Education for
International Understanding, Korea、
2014.10.31、ユネスコアジア太平洋セン
ター、ソウル、韓国

中山京子 他、グアムと日本をつなぐ教
育実践-ポストコロニアルな視点にたつ
た先住民学習の具現にむけて-、日本国際
理解教育学会第25回大会、2015.6.14、
中央大学

森茂岳雄、青木香代子他、海外日本語教
師アシスタント実習プログラムにおける
異文化理解-中央大学 SEND プログラム
(日本語教育)を事例として-、日本国際
理解教育学会第25回大会、2015.6.13、
中央大学

中山京子 他、社会科において「人種・民
族」をどのように教えるか-人類学研究の
成果とポストコロニアルの視点から-、全
国社会科教育学会第64回研究大会、
2015.10.10、広島大学

中山京子 他、戦争の記憶と対峙する若い
教師の葛藤、韓国国際理解教育学会第17
回大会、2016.11.12、延世大学

中山京子、21世紀の社会に求められる育
成すべき資質・能力と国際理解教育-教員
養成の取り組みから-日本国際理解教育
学会第26回大会シンポジウム、
2016.6.18、上越教育大学

[図書](計8件)

森茂岳雄・中山京子 他編、明石書店、現
代国際理解教育事典、2012、330

中山京子、御茶の水書房、先住民学習と
ポストコロニアル人類学、2012、343

中山京子、明石書店、グアム・サイパン・
マリアナ諸島を知るための54章、2012、
328

森茂岳雄 他、勁草書房、多文化教育をデ

ザインする-移民時代のモデル構築、2013、258

森茂岳雄・中山京子 他、明石書店、日韓中でつく国際理解教育、2014、164

森茂岳雄 他、東京大学出版会、公共人類学、2014、246

森茂岳雄・中山京子 他編、明石書店、国際理解教育ハンドブック-グローバル・シティズンシップを育む-、2015、257

森茂岳雄 他、明石書店、異文化に学ぶ「ひと」の教育、2016、231

研究者番号：

(4)研究協力者 ()

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他(教材集)〕(計3件)

森茂岳雄編、日系アメリカ人の経験に学ぶ-グローバル教育の教材づくり-、中央大学、2015、147

森茂岳雄編、ハワイ日系人の経験に学ぶ-グローバル教育の教材づくりⅡ-、中央大学、2016、88

森茂岳雄編、ハワイ日系人の経験に学ぶ-グローバル教育の教材づくりⅠ-、中央大学、2017、82

6. 研究組織

(1)研究代表者

森茂 岳雄 (MORIMO Takeo)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：30201817

(2)研究分担者

中山 京子 (NAKAYAMA Kyoko)
帝京大学・教育学部・教授
研究者番号：50411103

(3)連携研究者

()